

岩手医科大学報

IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

2023. 5

No. **547**



主な内容

- 特集—— 岩手医科大学～いのちから～ 放送500回を突破！
令和5年度事業計画
トピックス—— 新入職員辞令交付式が挙行されました
募金状況報告
表紙写真：満開を迎えた矢巾キャンパスの桜



特集



岩手医科大学

～いのちから～

花粉症

お酒

こころ

糖尿

お薬

血圧

虫歯



岩手医科大学～いのちから～ 放送500回を突破！

「医の力」「命から」をテーマに病気や予防、治療法等関心の高い身近な医療や健康に関する情報を本学教職員が広く県民に発信するラジオ番組。本稿では、収録の様子や制作に携わる方をご紹介します。

岩手医科大学～いのちから～

平成 25 年 10 月に放送を開始したエフエム岩手ラジオ番組「いのちから」（毎週日曜日 9:30～9:55）は、「医の力」「命から」をテーマに、大学広報はもとより、県民の関心の高い健康等に関する有益な情報を発信し、地域医療の一層の充実を図ることを目的としたものです。私達の身近な医療や健康に関する情報や本学が実践している最先端の医療などについて、本学の教職員が分かりやすくお伝えしています。

■ 放送 500 回の歩み

第 1 回目の放送は、平成 25 年 10 月 5 日、12 日の 2 週にわたり小川理事長から本学の歩みや東日本大震災津波からの復興に向けた取り組み、そして総合移転整備事業の展望についてお話をいただきました。続いて 19 日の放送では、当時、いわて東北メディカル・メガバンク機構長の祖父江学長から、機構発足から 1 年が経ち、事業の進捗状況や今後の展望についてお話をいただきました。

節目の第 100 回の放送は泌尿器科学講座の阿部教授に「腎臓のはたらきと透析療法」、第 200 回は医学教育学講座地域医療学分野の伊藤教授に「心疾患と地域医療」、第 300 回は有機合成化学講座創薬有機化学分野の田村准教授に「天然物の世界」、第 400 回は口腔医学講座関連医学分野の千葉教授に「歯科医療と消化器疾患の関わり」についてお話いただきました。先日放送された第 500 回では、準レギュラーの脳神経外科学講座の西川講師に「500 回記念！ 5 に関係した病気 三叉神経痛とは」についてユーモア満載にお話いただけました。

令和 3 年 8 月（第 408 回）からは、岩手医科大学の「凄さ」だけでなく「身近さ」「親しみやすさ」を伝えられるよう、出演者の人となりを知ってもらう「思い出の一曲」や、「Medical Tips」という栄養部、薬剤部、リハビリテーション部等から関連豆知識を発信していくミニコーナーを用意しました。いのちからはリスナーに楽しんでいただけるよう日々進化しています。



第 1 回放送：小川理事長
（平成 25 年 10 月 5 日、12 日放送）



第 2 回放送：祖父江学長
（平成 25 年 10 月 19 日放送）



第 200 回放送：伊藤教授
(平成 29 年 8 月 6 日放送)



第 400 回放送：千葉教授
(令和 3 年 6 月 6 日放送)



第 500 回放送：西川講師
(令和 5 年 5 月 7 日放送)

～いのちから～ができるまで

ラジオ番組「いのちから」はどのように作られているのでしょうか。企画から公開されるまでの一連の流れを写真交えて紹介します。

■ 企画

総務課広報係が身近な医療や健康に関する情報、岩手医科大学が実践している最先端の医療、研究、取組みなどから放送テーマを決定し、関係教職員に相談・出演交渉を行います。

■ 出演者と打ち合わせ



出演を受諾いただいた教職員へ総務課広報係にて作成したシナリオ案、ラジオ収録概要を持参し説明します。シナリオは収録日までに出演者と相談しながらリスナーに分かりやすいものになるよう手を加えていきます。収録日はこの時に調整します。

■ 収録

収録は大学関連施設内にて行います。エフエム岩手より番組の聴き手である小田加代子アナウンサーと録音作業員である小田島大ディレクターが派遣され、総務課広報係と出演者で用意したシナリオに沿って進行します。リスナーが気になる疑問を小田アナウンサーが質問し、出演者にはより深く分かりやすくお話しいただきます。スケジュールの都合が合えば準レギュラーの西川先生にも収録に参加していただいています。



■ 編集作業



収録後、エフエム岩手内にて小田島ディレクターが編集作業を行います。録音音声の音量調整、「え〜と」や咳払い等の不要な部分を除去し、聴きやすい番組になるよう作業します。

■ 公開

毎週日曜日 9 時 30 分からエフエム岩手で放送しています。大学ホームページ「最新ニュース」で次週放送内容を紹介しています。過去の放送は全てエフエム岩手ホームページからお聴きいただけます。皆さんもこの機会にぜひお聴きください!!

過去の放送はこちらから



平成 25 年から開始した「いのちから」は今年で 10 年目を迎えました。番組制作に携わっているアナウンサーとディレクター、そして本ラジオの準レギュラー脳神経外科学講座の西川講師にお話を伺いました。

■ アナウンサー 小田 加代子さん

Q 収録時に心掛けていることはありますか？

リスナーの目線、一般の方々の感覚を大切にしています。加えて、元気な方、その反対にまさにその病気と向き合っている方、両方の立場を常に意識しています。ですから、やさしく分かりやすいことは勿論なのですが、ときに専門の薬剤名や治療方法などを言葉にしていただけようご出演の先生方にご協力いただいています。

Q 出演者から話を引き出すコツを教えてください！

私自身、好奇心のかたまりのような人間ですので、質問（興味）は尽きません（笑）。心を開いて誠実に向き合えば、ご出演の皆様は必ず応えてくださる…そう感じています。

Q 皆さんへメッセージ

いつも大変お世話になっております。まだまだ伝えきれていないこと、繰り返し伝えたいこと、最新の話題などが沢山あると感じています。他の番組では制限があって言えないことも、この番組『いのちから』では存分に思った通りに話していただくことが可能です。ご出演、よろしくお願いいたします。



■ ディレクター 小田島 大さん



Q 収録時に心掛けていることはありますか？

総務課の皆さんのご配慮による静かな環境で、音声調整器を持ち込むことなくマイク 2 本の置き場所調整のみでバランス良く収録出来ています。放送時間を埋めるだけの時間確保を計算しながら収録することを心掛けています。

Q 編集作業で苦労することはありますか？

番組は、病気についてのテーマが 1 つあり音楽を 1 曲、そして健康情報をお伝えするミニコーナーという構成です。中身として 21 分から 21 分 20 秒に収める作業で、粗く並べる所から後 1 分摘める所まで、同じ素材を何度も見直します。

Q 皆さんへメッセージ

総務課の皆さんが、先生方と私たちの間に入り番組をコーディネートして下さっています。また西川先生からは、楽しく聞けて親しみの持てる番組にとのご指導があり今に至ります。最新の医療・健康に関する情報を多くのリスナーに届けたく、ご協力をお願いいたします。

■ 準レギュラー 西川 泰正 講師

Q 収録時に心掛けていることはありますか？

「出演者との会話」です。普段患者さん達の前では饒舌にお話しされるドクター達も、マイクの前に座ると原稿を棒読みする方も少なくありません。私の役目はあえてシナリオを無視して素の会話を引き出す、わかりにくい専門的な内容をわかりやすくかみ砕く、目には見えない高くそびえる医大の敷居を壊す、いわば「壊し屋」だと思っています。常に一般のリスナーの方々がどのように理解されるだろうかということを気にしながら臨んでいます。

Q 準レギュラーとしての意気込みを教えてください！

「岩手医大は敷居が高い」という言葉をよく耳にします。でも医大には明るく愉快的素晴らしい人間性を持った優秀な方々が沢山います。岩手医大をより身近に感じてもらうためには、この番組を通してそんな素敵な方々をもっと紹介すべきではないかと広報委員会でも力説したのがきっかけで準レギュラーとして番組制作に関わらせていただくことになりました。これからも収録には可能な限り乱入させていただき、出演される方々の素敵な素の魅力を引き出したいと思っています。

Q 皆さんへメッセージ

今是我々の持つ魅力や取り組みをより積極的にアピールしなければならない時です。岩手医科大学の凄さを紹介するという番組のコンセプトは変わりありませんが、より親しみを持ってもらうために組織のみならず個人の魅力にもフォーカスしたトークバラエティ番組に生まれ変わりました。ラジオを聞いた一般の方々からは有り難いことに総じて高評価をいただいておりますが、残念なことに同じ職員の皆さんの中にはそもそもこの番組を知らないという方もまだ多くいらっしゃるようです。是非聴いてみて、「凄くて身近な岩手医大」を知ってもらうために奮闘している仲間達がいることを知っていただけたら幸いです。



令和4年度 冬の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。令和4年12月から令和5年3月末まで実施した「冬季の省エネ活動」についてご報告いたします。

■ 冬季省エネ活動概要

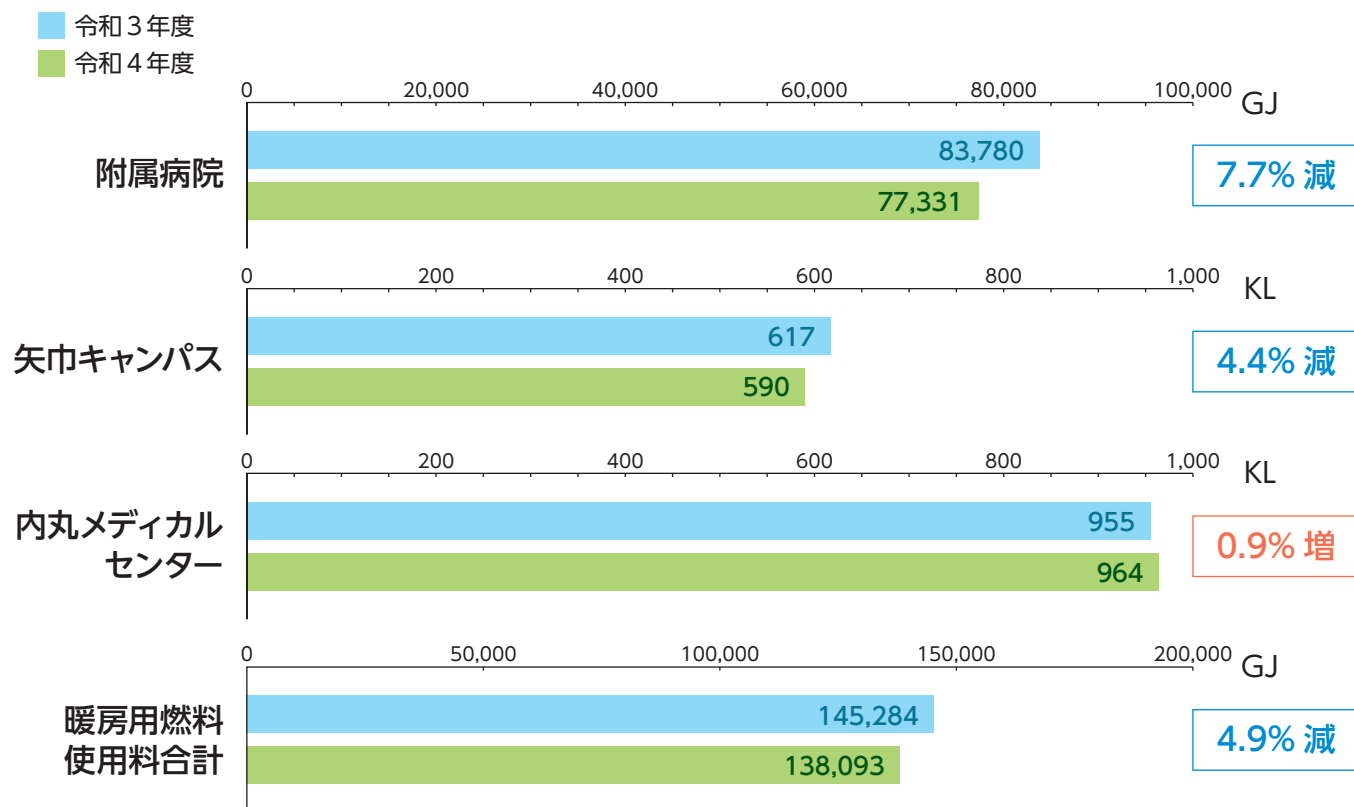
【実践期間】 令和4年12月1日～令和5年3月31日

【削減目標】 主要3施設（矢巾キャンパス・附属病院・内丸メディカルセンター）の暖房用燃料の使用量を前年度比1%削減

- 【取組】 ①空調運転時間の短縮 ④定期パトロール
②暖房設定温度（22℃を目安） ⑤月毎の取り組み状況報告
③啓発ポスターの掲示

■ 冬季省エネ活動実施結果

附属病院と矢巾キャンパスにおいては、目標を超える削減を達成しました。内丸メディカルセンターについては断熱性能の低い建物ということもあり、1月下旬から2月上旬の厳しい寒波による設備の凍結防止対応等により多くの燃料を使用したため、目標の達成とはなりませんでしたが、しかしながら、主要3施設の暖房用燃料使用量合計は前年度比4.9%を削減することができました。本活動へのご理解とご協力をいただきありがとうございました。



■ エネルギー使用料金の削減効果

暖房用燃料使用量の削減により、エネルギー使用料金の削減額を試算したところ 4,300 万円の削減効果が確認できました。また、当該活動期間中に「東北電力 冬の節電チャレンジキャンペーン」へ登録しました。日ごろから取り組んでいる電気の省エネ意識の成果は、主要3施設合わせて、使用量が令和3年度比で3%削減され、1,500 万円の電気料金削減効果が確認され、550 万円ほどのキャンペーン参加特典を得ることができました。

省エネ活動はできることからひとつずつ、皆様のご協力をお願いいたします。

事業計画

1. 策定方針

本法人は、最新の生命科学に対応した教育・研究・診療を実践し、将来の更なる発展のため総合移転整備計画を策定し、開設以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019 年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020 年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、今後の最大の目標である内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発に向けた事業資金を確保しつつ、事業を推進する計画であったが、附属病院建設に係る借入金返済が始まった中、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大による診療・手術制限等に伴う医療収入の減少、更には近年の物価高騰に伴う支出増大等が法人経営に大きく影響し、計画の延期を余儀なくされており、加えてこの間も施設の老朽化は進行し、取壊しが予定される施設に対する修繕工事を実施せざるを得ない状況が続いている。

この苦境を打開するため、医療収入をはじめとする増収策や経費節減等の様々な対策を講じているが、未だ収支の均衡には至っていないことから、引き続き全学を挙げて更なる経営改善の努力を重ね、より強固で安定した経営基盤を築いた上で、事業資金を確保し、今後の道筋を確かなものにしていくことが極めて重要である。

そして、医療系総合大学として、誠の人間を育成することを第一義に、質の高い教育研究活動を実践し、国家試験合格率の向上、学生の確保、外部資金の獲得等に努めるとともに、県内唯一の特定機能病院として、2022 年 4 月に竣工した「感染症対策センター」を効果的に運用し、新型コロナウイルス感染症の他、新興感染症の発生等においても高度医療の堅持と地域医療への貢献を果たしていかなければならない。

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくために「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定した。その取組・進捗状況については、検証の上、社会情勢や経済状況等を踏まえながら必要に応じ計画の見直しを行い、事業の適切な推進に努めることとしており、2022 年度実施予定事業について検証を行った結果、10 月時点で「計画どおり達成した：28 事業」「計画どおり達成する見通しである：94 事業」「計画どおり達成する見通しが立たない：2 事業」となり、今後予定している事業の適切な推進に向けて実施時期や規模等計画の一部見直しを行った。

以上を踏まえ、中期計画に基づき、2023 年度は以下の事業を実施する。

2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和 5 (2023) 年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和 5 年度）をご覧ください。

1. 創立 120 周年記念事業関係

- ①内丸メディカルセンター新棟建設計画（仮称）の推進
- ②内丸地区跡地活用計画の検討推進
- ③事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施

2. 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科：教育課程の充実と情報公開の推進
- ②大学院歯学研究科：学位授与方針に対応した学位論文審査基準の設定及び学生への事前周知（早期課程修了含む）
- ③医学部：学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
- ④歯学部：教育課程の充実

- ⑤歯学部：計画的な教員選考
- ⑥薬学部：薬剤師養成教育の充実と入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化
- ⑦看護学部：学部を安定的・発展的に機能させていくための取組
- ⑧全学的教育改革の支援活動
- ⑨教学IR (Institutional Research) の充実
- ⑩教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑪実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
- ⑫シミュレーション教育環境の整備
- ⑬マルチメディア教室ノートパソコンの更新
- ⑭入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑮古書・貴重書の修復・保管
- ⑯地域への情報発信
- ⑰蔵書の在り方に係る評価・分析
- ⑱産学官連携を通じた研究成果の社会還元への推進
- ⑲学生支援体制の推進
- ⑳学生のキャリアビジョンを上げ、希望する就職を実現するための支援
- ㉑医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3. 補助事業及び委託事業関係

- ①医歯薬総合研究所研究施設における支援体制の整備
- ②日本災害医療ロジスティクス研修
- ③災害時実践力強化事業
- ④災害医療研修会
- ⑤いわての師匠事業
- ⑥東北メディカル・メガバンク計画
- ⑦岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑧岩手県こころのケアセンター事業
- ⑨いわてこどもケアセンター運営事業

4. 診療関係

- ①医師の時間外労働規制に対する取組
- ②病院運用の効率化に向けた取組の推進
- ③臨床研修医の増員に向けた取組
- ④内視鏡手術支援ロボットの更新及び増設
- ⑤内丸メディカルセンター滅菌関係機器の更新
- ⑥内丸メディカルセンター診療用放射線機器の更新
- ⑦内丸メディカルセンター医師事務作業補助者（MA）の拡充

5. 管理運営関係

- ①ガバナンスの向上等による運営基盤の強化
- ②永続的かつ安定的な運営を図るための財政基盤の強化
- ③事務局業務におけるRPA化の推進、RPAに精通した人材の育成、業務効率化
- ④ワークフローシステムの導入
- ⑤勤怠管理システムの導入
- ⑥借入金の返済と借入金利息の支払い
- ⑦内丸地区整備資金の確保に向けた財務分析
- ⑧本法人保有資産の有効活用
- ⑨マルチメディア教育研究棟4階サーバ室電源増強工事
- ⑩矢巾・内丸学術ネットワーク更新
- ⑪標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

6. 施設設備関係

- ①矢巾キャンパス照明制御システム更新
- ②内丸メディカルセンター入院棟No.2冷凍機更新
- ③矢巾キャンパス図書館災害（図書落下）防止対策

本法人は、2020年度から2024年度にかけての主要計画を取りまとめ、2020年3月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定し、本年3月に計画の一部変更等を行いました。

令和5（2023）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



法科学講座法歯学・災害口腔医学分野の熊谷准教授が「歯牙鑑定」照合オンラインアプリを開発しました

3月12日（日）、岩手県公会堂において、熊谷准教授が開発した「歯牙鑑定」照合オンラインアプリの研修会が行われました。

このアプリは、東日本大震災で遺体の身元確認が難航した教訓を踏まえ、歯の治療痕等から身元を特定するもので、タブレット端末等で簡単に入力でき、複数人による同時捜査や遠隔地での作業も可能となっています。犬歯（識別番号3番）と第1大臼歯（同6番）が身元特定に繋がりがやすいことから岩手県歯科医師会によって「36（サブロク）検索」と名付けられています。研修会では全国から参加した警察官や歯科医師19名に熊谷准教授がアプリの使い方を指導しました。

今後、岩手県警と連携して実用化を目指していきます。



作業風景（左が遺体検査者、右が記録者）

高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程と特定行為教育課程の合同修了式が挙行されました

3月22日（水）、附属病院10階研修室において、令和4年度緩和ケア認定看護師教育課程及び特定行為教育課程の合同修了式が挙行されました。

式では、修了生の呼名の後、代表者に修了証が授与されました。緩和ケア認定看護師教育課程11名を代表して佐藤明美さんは「この1年間で学んだ人間力、関係性の力、コミュニケーション力、臨床推論力を活かし、患者さんの苦悩に寄り添っていく」、特定行為教育課程8名を代表して熊谷久美さんは「ここで得た学びを実践するとともに、臨床において指導的役割を果たすことで医療及び看護の質が向上するよう日々努力する」と謝辞を述べました。



修了生と高度看護研修センター

診療記録質的監査表彰式が挙行されました

3月23日（木）、附属病院10階中会議室において、2回目となる診療記録質的監査表彰式が挙行されました。

附属病院診療情報管理委員会では、本院での適正な診療記録の記載・保存・利活用の促進を行っていくのと同時に、診療記録記載漏れの改善、記載内容の向上等を目的に、診療記録監査委員会を立ち上げ、「量的監査」ならびに「質的監査」を行っています。また、監査項目において良好な成績を収めた上位3診療科に対して、表彰状、トロフィー、賞品を毎年授与しています。

式では、福島診療情報管理委員長より「本活動はこれからも継続して実施する。表彰された3診療科は引き続きのご尽力を、惜しくも表彰を逃された診療科は次回の表彰を目指し更なるご努力を祈念します」と激励の言葉が述べられました。

受賞診療科

第1位	呼吸器外科（2連覇達成）
第2位	緩和ケア科
第3位	腎・高血圧内科



受賞診療科と診療情報管理委員会

名誉教授称号授与式が挙行されました

3月31日（金）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、小川理事長が病理診断学講座菅井有教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列左から 酒井副学長、三浦副学長、佐々木医学部長
前列左から 小川理事長、菅井名誉教授、祖父江学長

新入職員辞令交付式が挙行されました

4月1日（土）、大堀記念講堂において、令和5年度新入職員辞令交付式が挙行され、127名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、薬剤部薬剤師の朝岡ひかりさんが小川理事長より辞令書を受け取りました。また、西9階A病棟看護師の藤川舞香さんは「高い倫理観を持ち、感謝の気持ちを忘れず、質の高い医療を実践し、多くの笑顔を守れるよう、努力していきたい」と力強く誓詞を述べました。

■採用者内訳

事務員6名、技術員1名、薬剤師9名、臨床検査技師8名、診療放射線技師4名、理学療法士4名、作業療法士2名、臨床工学技士4名、視能訓練士2名、調理師1名、歯科衛生士1名、看護師85名



新入職員誓詞

岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました

4月5日（水）、歯学部4階講堂において、令和5年度岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました。

式では、入学生28名の呼名の後、三浦校長から入学の許可が宣言されました。入学生を代表し伊藤愛花さんが「本校の学生としての自覚を持ち先生方のご指導を仰ぎ勉学に精進します」と宣誓がありました。

入学生は医療人としての道の第一歩を踏み出し、期待に胸を膨らませているようでした。



歯学部講堂で挙行した入学式

岩手医科大学入学式が挙行されました

4月12日（水）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて、令和5年度岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、入学生及び教員のみ参加とし、参加が叶わなかった保護者に向けて、ライブ配信が行われました。

今年度は大学院医学研究科博士課程21名・修士課程8名、歯学研究科博士課程5名、医学部130名・3年次編入学3名、歯学部30名・2年次編入学6名、薬学部35名、看護学部92名の入学生を迎えました。



トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールで挙行した入学式



入学生宣誓



式典に臨む入学生ら

ドミトリー圭友館で消防訓練が行われました

4月14日(金)、ドミトリー圭友館(学生寮)において、消防訓練が行われました。

この訓練は館内からの火災発生を想定し、矢巾キャンパス防火・防災管理者、矢巾キャンパス自衛消防隊(主に事務職員で構成)、寮長及び寮母、入寮生が参加し、初期消火、通報、避難誘導の連携した実践訓練を行いました。

盛岡南消防署矢巾分署中岫分署長代理は「電化製品による火災が増えている為、取り扱いには十分注意し、いざという時に初期消火にすぐ移れるよう消火器の場所を把握してほしい」と講評がありました。入寮生は慣れない消火器を手に緊張した面持ちで訓練に取り組んでいました。



消火器の使い方を教わる入寮生

4学部合同セミナーが行われました

4月15日(土)、矢巾キャンパスにおいて、4学部合同セミナーが開催されました。この科目は、4学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL(問題基盤型学習)形式で検討するものです。

当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。



チーム作業(患者さんへの説明内容の検討)

NHK ラジオ第一放送「らじ推し」に 本学学生が出演しました

4月21日(金)、NHK盛岡放送局でNHKラジオ第一放送にて放送される「らじ推し」の収録に、本学の学生が参加しました。

この番組は、ラジオを通して岩手の「宝」である人やモノ、取り組みを紹介していく4月から放送開始の新番組です。その第1回、第2回の放送に本学4学部の学生が参加し、「なぜ医療の道を志すのか」「学校では何を学んでいるのか」「大学生活」などについて番組ゲストの矢野智美さん(株式会社ヘラルボニー岩手コミュニティマネージャー)と話しました。

参加した学生は自身の想いをしっかり述べ、笑い溢れる楽しい収録になりました。



番組の情報ははこちらから



NHK 盛岡放送局で行った収録



左から 医学部6年山崎稜河さん、看護学部4年高橋ひまわりさん、薬学部6年山城唯香さん、歯学部6年吉田慧多さん



出演者とNHKスタッフ

救急・災害医学講座の高橋 学 准教授が

Top Cited Article 2021-2022 in : ACUTE MEDICINE & SURGERY を獲得しました

2021年ACUTE MEDICINE & SURGERY に掲載された症例報告がTop Cited Article 2021-2022 in: ACUTE MEDICINE & SURGERYを獲得しました。

この報告は、お酒を飲んでいないのに自分の体内で産生されたアルコールにより酩酊発作を繰り返してしまう、自家醸造症候群という非常に珍しい疾患をテーマにしたものです。これまでも世界で30例ほどの報告がありましたが、そのほとんどが原因として消化管の形態異常の部位に蓄積した細菌や真菌が、摂取した食物（特に糖質）と反応しアルコールを産生するという内容でした。今回我々の報告では、原因の1つとして重度の齦歯や歯周病を有した患者さんでは歯周病菌も原因の1つとなり得るとし、実際この患者さんの口腔内から採取した菌のアルコール産生能を測定、またアルコール分解能の遺伝子検査も施行し、発作の原因を探索しました。その原因を完全には明らかにすることは出来ておりませんが、新たな視点で検討したことが皆さんの興味を惹いたと考えております。治療に協力をいただいた内科学講座消化器内科分野の柿坂特任准教授、歯周病菌の採取や培養、菌科的なアドバイスをいただいた口腔医学講座予防歯科学分野の佐藤講師、歯周病菌からのアルコール産生量を測定いただいた中央臨床検査部の山田副技師長にも感謝申し上げます。

古くから口嚙酒が存在することからも一般的に口腔内に寄生する菌が糖質と反応しアルコールを産生することは知られておりますが、この患者さんに限らずアルコール不耐性（いわゆる下戸）の方々は、体内で菌が産生する微量なアルコールを分解できない可能性があると考えられております。“お酒が飲めない”、“飲むとすぐフラフラになってしまう”、“お酒を飲んでいないのになんとなく口からお酒の匂いがしたことがある”という方は、食後に極微量の呼気アルコールが検出される可能性もあります。心当たりのある方は是非一度我々にご相談ください。



星川講師、高橋准教授

（文責：救急・災害医学講座 准教授 高橋 学）

内科学講座脳神経内科・老年科分野の岩岡 和博 助教が

日本パーキンソン病・運動障害疾患学会で臨床部門優秀賞を受賞しました



前田教授、岩岡助教

この度、第16回パーキンソン病・運動障害疾患学会コンgresにおいて、「パーキンソン病における臨床的マイルストーン予測バイオマーカーに関する検討」という演題が、臨床部門優秀賞を受賞し身に余る光栄であります。

パーキンソン病（PD）における転倒、幻視、認知機能障害などの臨床徴候は、転帰を予測する臨床的マイルストーンであります。これらと関連するバイオマーカーは未だ確立されておられません。本研究ではPD患者さんの血漿プロテオーム解析を行い、臨床的マイルストーン各項目との関連について解析し、予測バイオマーカーについて検討しました。今回の研究で得た知見を活かし、今後の臨床研究において一歩邁進できるよう、より一層努力する所存です。

最後に、ご指導賜りました前田教授はじめ、研究にご協力頂きました武田薬品工業株式会社の安藤達哉先生、株式会社FRONTEOの豊柴博義先生、日野公洋先生、阿部加奈子様、小野寺ひろえ様ならびに当科の先生方に、この場をお借りし深謝申し上げます。

（文責：内科学講座脳神経内科・老年科分野 助教 岩岡 和博）

新任教授の紹介

令和5年4月1日就任

病理診断学講座

柳川 直樹

(やながわ なおき)

昭和47年4月18日
福島県郡山市出身



研究テーマ

・胸部悪性腫瘍の形態病理 ・分子病理 ・腫瘍微小環境

主な著者論文

- ・ The new IASLC grading system for invasive non-mucinous lung adenocarcinoma is a more useful indicator of patient survival compared with previous grading systems. J Surg Oncol. 2023 Jan;127(1):174-182.
- ・ High expression of fibroblast-activating protein is a prognostic marker in non-small cell lung carcinoma. Thorac Cancer. 2022 Aug;13(16):2377-2384.
- ・ The Frequency of DNA Mismatch Repair Deficiency Is Very Low in Surgically Resected Lung Carcinoma. Front Oncol. 2021 Oct 6;11:752005.

趣味

サイクリング

教職員への自己PR

令和5年4月1日付けで、菅井有教授の後任として病理診断学講座の教授を拝命し、身が引き締まる思いであります。本講座は臨床医学講座の一つであり、附属病院さらには各県立病院の病理診断を行っております。近年の病理診断はただの診断のみにとどまらず、治療方針の決定にも関わっております。今後も臨床に有用な情報を先生方にお返しして患者様の治療に役立つよう努めて参ります。さらには診療のみならず、教育・研究についても頑張っていきます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- | | |
|---------|--|
| 平成9年3月 | 山形大学医学部 卒業 |
| 平成16年3月 | 山形大学大学院医学系研究科医学専攻修了 |
| 平成16年4月 | 山形県立中央病院 病理部 |
| 平成18年4月 | 国立大学法人山形大学 山形大学医学部医学科環境病態統御学講座 人体病理病態学教室 助教 |
| 平成21年4月 | University Health Network, Princess Margaret Hospital/ Ontario Cancer Institute, University of Toronto, CANADA Research Fellow |
| 平成23年4月 | 山形県立中央病院 病理部 |
| 令和2年4月 | 岩手医科大学医学部 病理診断学講座 准教授 |
| 令和5年4月 | 現職 |

令和5年4月1日就任

薬科学講座天然物化学分野

田浦 太志

(たうら ふとし)

昭和46年7月30日
長崎県佐世保市出身



研究テーマ

薬用植物二次代謝産物の生合成酵素に関する研究

主な著者論文

- ・ 認知症の治療における大麻製剤の可能性 Front. Pharmacol. 12, 713228 (2022)
- ・ カンナビノイドの生化学および生物工学 Science Asia 45, 1513 (2019)
- ・ 抗 HIV メロテルペノイドを合成する芳香族フェルネスル基転移酵素 Plant Physiol. 178, 535 (2018)

趣味

植物の観察と写真撮影

教職員への自己PR

この度、薬学部薬科学講座天然物化学分野教授、ならびに附属薬用植物園園長を拝命致しました。薬用植物は生薬資源として、また医薬品原料として現代医療において重要な役割を担っています。多くの植物由来天然物について抗 SARS-CoV-2 活性が検討されてきたように、薬用植物は新たな疾患に立ち向かう医薬資源としても重要です。薬用植物、生薬および漢方薬などについて総合的な知識を持つことは医療人にとって必須であり、当該分野の教育を通じて学生の未来に貢献したいと考えております。また、研究においても薬用植物に関するテーマを推進するとともに、オープンキャンパスや地域貢献への薬用植物園の活用についても検討したいと考えています。ご指導のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 平成6年3月 | 九州大学薬学部薬学科 卒業 |
| 平成8年3月 | 九州大学大学院薬学研究科製薬化学専攻修士課程 修了 |
| 平成9年11月 | 九州大学薬学部薬学科生薬学教室 助手 |
| 平成11年11月 | 九州大学大学院薬学研究科 博士(薬学) |
| 平成19年4月 | 九州大学大学院薬学研究科薬用資源制御学分野 助教 |
| 平成25年7月 | 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)薬用生物資源学研究室准教授 |
| 平成31年4月 | 富山大学薬学部附属薬用植物園園長 |
| 令和5年4月 | 現職 |

令和5年4月1日就任

地域包括ケア講座

岩渕 光子

(いわぶち みつこ)

昭和46年
岩手県一戸町出身



趣味

自然とのふれあい(温泉巡り、キャンプ、BBQ)

教職員への自己PR

この度、地域包括ケア講座教授を拝命いたしました。私は、保健所(岩手県)と大学教育(地域看護学)の経験を通して、地域に暮らすさまざまな人々を対象とした看護の教育、研究を進めて参りました。誰もが取り残されない地域づくりのために、地域共生社会に向けて公衆衛生、地域医療における看護職が担う役割を検討し、人材育成を進めていきたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 平成元年3月 | 北里大学看護学部看護学科卒業 |
| 平成5年4月 | 北里大学病院入職 |
| 平成6年4月 | 岩手県知事部局 保健師(岩手県大船渡保健所、岩手県盛岡保健所勤務) |
| 平成11年4月 | 岩手県立大学看護学部看護学科(助手、助教、講師) |
| 平成22年3月 | 岩手県立大学大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程修了 |
| 令和元年4月 | 岩手医科大学看護学部(特任准教授、准教授) |
| 令和5年3月 | 青森県立保健大学大学院健康科学研究科健康科学専攻 博士後期課程修了 |
| 令和5年4月 | 現職 |

研究テーマ

- ・ 過疎地域における地域包括ケア ・ 子どもの生活リズムと健康支援
- ・ 地域で働く看護職の人材育成

主な著者論文

- ・ Relationship of preschoolers' chronotype with parental sleep habits and consideration of sleep behavior, 青森保健医療福祉研究, 5(1), 1-10, 2023.
- ・ 過疎地域における中小規模医療機関の看護現任教育体制の現状と課題, 日本農村医学会雑誌, 68(5), 595-605, 2020.
- ・ A市住民の最期の療養場所に関する意向, 岩手看護学会誌, 10(2), 3-11, 2016.

1. 内丸地区整備計画「歯学部・歯科医療センター」移転計画の延期について

2022年度の決算見込み及び2023年度予算案に基づく本学の財政状況を踏まえ、基本設計を開始することとしていた歯学部・歯科医療センターの移転計画を1年間延期すること、併せて入院棟等改修工事の設計施工業者の選定も行わないことを承認した。

2. 2022年度補正予算について

3. ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書の作成について

4. 中期計画の一部変更及び2023年度事業計画について

5. 2023年度予算について

6. 評議員の選任について

第5号評議員 小澤 正吾

（任期 2023年4月1日から2026年3月31日他の評議員の残任期間）

7. 教員の人事について

医学部病理診断学講座 教授

柳川 直樹（前 同講座 准教授）

医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 特任准教授

細野 祐司（前 東海大学医学部附属病院リウマチ内科 講師）

医学部小児科学講座 特任准教授

外館 玄一郎（前 同講座 講師）

医学部病理診断学講座 特任准教授

刑部 光正（前 同講座 講師）

（発令年月日 2023年4月1日）

8. 組織規程の一部改正等について

本学の産学官連携及び知的財産の創出等を推進することを目的に、知的財産本部とリエゾンセンターを設置し、方針と実務とを分けて運用してきたが、今般の社会情勢の変化やニーズの多様化に対応するため、一体的な取組みが求められているとともに、事業範囲が拡大するなかで組織名称も実態に即して見直しを行いたいことから、知的財産本部とリエゾンセンター

を統合し、研究開発・共創センターに組織改編すること、研究開発・共創センターの体制は現行のリエゾンセンターと同様とし、改編後のセンター長は現リエゾンセンター長が引継ぎ、任期はリエゾンセンター長の残任期間とするとともに、事務は継続して研究助成課の担当とすること、また、本組織改編に伴い、組織規程の他、関連規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2023年4月1日）

9. 学則の一部改正について

医学部、歯学部及び薬学部における2023年度教育課程再編に伴い、学則の別表1を一部改正することを承認した。

（改正年月日 2023年3月27日 施行年月日 2023年4月1日）

10. 学業奨励奨学金規程（歯学部・薬学部）及び薬学部育英奨学金規程の一部改正について

奨学生の決定を取消された者の返還年度を明確にすることとし、学業奨励奨学金規程（歯学部・薬学部）及び薬学部育英奨学金規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2023年4月1日）

11. 学納金減免規程の一部改正について

専任職員の子の定義について、社会情勢等を踏まえ、扶養の概念を見直すとともに、減免の重複を避けること、本学の財政状況並びに対象者拡大の可能性を考慮し、減免率を変更すること、また、医学部入学者選抜においては、貸与額が異なる地域枠入学制度が設定されていることから、一律に毎年の貸与額を控除した額を減免対象とすることとし、学納金減免規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2023年4月1日）

12. 所有土地の売却について

本学が所有する旧花巻温泉病院鉱泉地及び付属施設、緑が丘グラウンド並びに盛岡市肴町の土地等の一部を売却することについて審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

1. 理事の競業について

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第15回目のご芳名紹介です。(令和5年2月1日～令和5年3月31日)

■ 個人(1件)

<ご芳名のみ>

渡邊 直哉(父母)

(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額(円)
主 陵 会	384	198,078,220
在 学 生 ご 父 母	281	74,520,000
役員・名誉教授	38	42,570,000
教 職 員	39	6,620,000
一 般	19	461,789,001
法 人 ・ 団 体	224	130,655,481
合 計	985	914,232,702

(令和2年9月1日～令和5年3月31日現在)

創立120周年記念事業募金

第51回目のご芳名紹介です。(令和5年2月1日～令和5年3月31日)

■ 法人・団体等(2件)

<1,000,000>

医療法人社団 嘉奉会(富山県南砺市)

<ご芳名のみ>

主陵会 宮古支部(岩手県宮古市)

■ 個人(3件)

<1,000,000>

山田 宏之(医31)

<100,000>

藤井 謙(医27)

<ご芳名のみ>

菊地 文彦(一般)

(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額(円)
主 陵 会	1,113	673,045,089
在 学 生 ご 父 母	933	548,622,000
役員・名誉教授	102	124,720,000
教 職 員	270	36,372,000
一 般	148	50,285,010
法 人 ・ 団 体	407	1,275,404,000
合 計	2,973	2,708,448,099

(平成26年6月1日～令和5年3月31日現在)

岩手医科大学報編集委員

小川 彰	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
高橋 奈美	

編集後記

「異例の早咲き」とニュース等で報道された今年の桜も終わり、新緑の季節になりました。

さて、今月号の特集は「いのちから」500回放送記念です。岩手医大の幅広い専門分野の先生方のお話を、多くの皆様に聞いて欲しいと平成25年に開始となった番組ですが、おかげ様で500回を迎えることが出来ました。その制作の裏側や収録の様子など、普段は知ることが出来ないことも紹介しておりますので、ぜひ読んでみて下さい。

これから夏本番を迎えます。皆様、体調には十分気を付けてお過ごし下さい。

(編集委員 藤村 尚子)

岩手医科大学報 第547号

発行年月日/令和5年5月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

お知らせ 本学職員子弟に係る学納金減免制度が改正されました

令和5年4月1日に「岩手医科大学学納金減免規程」が改正されましたので、本制度についてお知らせいたします。詳細につきましては、学内通知または学事課ホームページをご確認のうえ、学務部学事課（内線：5015）までお問い合わせください。

1 申請要件

- (1) 岩手医科大学職員就業規則第2条に規定する職員であって、学納金の減免を受けようとする年度の4月1日現在において通算10年以上勤務している者。
- (2) 専任職員の子とは、当該職員の同一戸籍内の子。

2 申請方法

本規程に該当し、減免を申請する職員は、以下2点の書類を学事課へご提出ください。

- (1) 学納金減免申請書
- (2) 4月1日以降の子の戸籍抄本（戸籍の筆頭者が当該職員ではない場合は戸籍謄本）

3 申請期限

令和5年6月16日(金)

※期限までに申請がない場合は減免を受けられません。

来年度以降の詳しい日程は、年度当初に通知される学事課からの案内をご確認ください。

4 決定までの流れ

所定の会議を経て承認されましたら、該当者へ決定を通知します。

5 規程の一部改正について

令和5年3月27日付にて以下のとおり改正しました。

改正条文	改正内容
第2条3項	専任職員の子の要件の一つであった「被扶養者」に係る要件を削除
第2条4項	減免の適用回数について新たに制定
第3条1項	減免の率を「各々3分の1」から「各々4分の1」に改正
第3条6項	地域枠で入学した子の減免額を新たに制定

※本規程は、大学ホームページにも掲載していますので、ご確認ください。

【大学ホームページ】→【学内限定情報】→【岩手医科大学規程集】→【第5章 厚生補導等 第1節 奨学学納金減免規程】

定年を迎えられた教職員の皆様、 永い間お疲れ様でした



本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

4列目	柳本 実 伊藤 雅範 松岡 洋一 佐藤 文彦 米澤 裕司 星野 正行 安保 淳一 岡田 誠
3列目	中田 紀恵 晴山 明美 工藤 静子 武藤 千恵子 岩崎 薫 小泉 智香子 山本 英子 高橋 元子 藤井 ヌイ子 村中 健太
2列目	武田 リカ 小笠 千公 白岩 秀子 山崎 郁子 佐藤 真結美 伊東 由美子 内田 美喜子 田沼 真理 佐々木 琢子 菅原 敏子 槻木 加代子
1列目	小澤 正吾 山本事務局長 小笠原附属病院長 河野薬学部長 三浦副学長 祖父江学長 小川理事長 酒井副学長 佐々木医学部長 三浦 幸枝 佐藤看護部長 菅井 有